



竹千代賞

幼子は風船を手に冒険へ

片瀬 勇大

【評】

「風船」は春の季語です。この句の主人公は親か祖父母に風船を買ってもらった「幼子」でしょうか。風船の紐をしっかり握って、公園か、遊園地かそのへんを元気に飛び歩いているだけなのかもしれませんが、意気揚々と歩く「幼子」が風船に連れられて冒険の旅へと出発するのです。そんな場面だろうと読者の想像力はいろいろに刺激されるのです。「冒険へ」の措辞がほほ笑ましくも、またアドベンチャーとしての「幼子」の大きな未来が膨らむ、ファンタスティックな句となりました。